

成田市都市計画審議会 会議概要

1 開催日時

平成24年11月14日(水) 午後1時30分から午後3時

2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所 議会棟3階 執行部控室

3 出席者

(委員)

宗藤会長、片岡委員、宍倉委員、石川委員、木内次長(渡邊委員代理)、瓦井委員、山本交通課係長(坂本委員代理)、海保委員、湯浅委員、伊橋委員、一山委員、飯島委員、茂手木委員、加藤委員(順不動)

(事務局)

(議案第1号)

岩岡都市部長、金岡都市部技監、宇澤都市計画課長、藤掛都市計画課主幹、後藤都市計画課副主幹、會嶋都市計画課主査、富澤都市計画課主査、飯嶋都市計画課主任主事

(議案第2号) ※議案第1号に係る上記職員に加える。

北島危機管理課長、須向危機管理課副主査、加瀬保育課長、高橋保育課主査、稲阪土木課長、川瀬土木課主査、椿道路管理課副主幹、芹澤道路管理課主査、松本下水道課長、鵜澤下水道課主査、鈴木公園緑地課長、石橋公園緑地課副主査、布施街路課長、昭和株式会社 樋口・安達

4 議題

議案第1号 成田都市計画地区計画の決定について(成田市決定)(付議)

議案第2号 都市再生整備計画事業の事後評価について(諮問)

5 議事(要旨)

議案第1号、「成田都市計画地区計画の決定について」の付議については、中台三丁目地区の一部を計画区域とする地区計画について、案のとおり決定することを全会一致にて承認した。

また、議案第2号、「都市再生整備事業の事後評価について」の諮問については、概ね妥当であると評価されたが、評価の方法や、今後のまちづくりについて、各委員より意見が出された。

意見の詳細、質問および回答内容については以下のとおり。

(質疑応答)

議案第1号 成田都市計画地区計画の決定について (付議)

質 問 (委員)

第1回目の都市計画審議会において報告のあった、ニュータウン地区の最高高さ制限との関わりについて、前回説明のあった方針に基づいて進めていくつもりなのか。

回 答 (事務局)

最高高さ制限については、現在パブリックコメントにより意見を求めています。今後の手続きとしては、今年度中の都市計画決定を目指しております。

質 問 (委員)

市では、現在10地区に地区計画が定められていると伺っており、その大半が、住宅地において定められていると思われる。それらと比較して、今回の地区計画で特徴的な点があれば、説明いただきたい。

回 答 (事務局)

今回、提案に基づき地区計画の案を策定しておりますが、他の地区計画との特徴的な違いにつきましては、まず建築物の用途の制限のなかで、二世帯住宅に限って長屋を認めている点と、壁面の位置の制限について、他の地区においては、隣地境界線からの距離を1mとしておりますが、当該地区では、0.8mとしている点が異なっております。

議案第2号 都市再生整備計画事業の事後評価について (諮問)

意 見 (委員)

目標に対する指標1・2・3は成田市の全体の都市計画の観点から、事後評価の指標として用いる意義は認められる。

指標1については達成できている。

指標2については残念ながら目標値を下回っているが、一般的にニュータウンエリアの人口減少や高齢化が進む中、人口減少の下げ止まり兆候がみられることは当事業が一定の効果であると言えよう。

指標3については、理想的な目標値を掲げたがその目標値には至らなかった。その要因は調査時期によるもの、局所的な人口動向によるものが大きいと確認できた。

これらの要因を差し引いて考えるならば、待機児童の減少に少なからず寄与したことが認められる。

その他の指標についても事業効果が認められる。特にバリアフリー化率が100%となった点は高く評価できる。

住民参加・持続的なまちづくり体制についても、当事業を通じて、全体的な底上げができたと言え、地方の自主性・市民協働の観点から一定の評価ができる。

意見（委員）

他の委員の意見でもありましたが、居住人口の下げ止まりについては、一定の評価が出来ると思います。

待機児童については、未だ待機児童がおり、これは待ったなしの状況ですので、全力を挙げて、待機児童をゼロにするように努めていただきたい。

成田湯川駅の利用者は増えているように実感しているが、駅へのアクセス性については、車で駅に向かった際に、車を止める駐車場が無いと思われます。

また、自転車ネットワークの充実が図られたとあるが、駐輪場については、現在どのような状況になっているのか、また、今後どのように充実を図っていくのかを伺いたい。

会長意見

只今の委員のご意見につきましては、前半部分のご意見、後半部分のご質問として、事務局より回答願います。

回答（事務局）

駅前広場の自転車置き場については、広場の東側に設置されております。

駐車場については、現在の基本的な考え方として、駅前広場にバスの路線が整備されており、4路線で10分から15分間隔でバスの利用が可能のため、公共交通機関のご利用を勧めています。

質問（委員）

今後のまちづくりの方策として、各種情報提供機能の強化とありますが、具体的には、どのようなことを行う予定なのか。

回答（事務局）

平成25年度から第二期計画を検討しており、現時点では、具体的に決まっていない状況です。

質問（委員）

駅前広場の快適性に関する指標について、指標の計測についてのサンプリング手法について、その根拠を教えてください。

また、駅の乗降者数が増えていると思うとの意見がありましたが、当初計画の

乗降者数と直近の乗降者数を教えていただきたい。

回 答（事務局）

アンケートのサンプリング手法については、第二期計画のサンプリングとあわせて、1000通の調査票を出させていただいており、その回答については455通回答をいただいております。

駅の乗降客数については、平成23年の資料として、一日の平均が1050人の乗降者数と発表しております。

質 問（委員）

当初7、8千人の利用見込みがあったと思いますが、なぜこれほど下回ったかについて、その要因をどのように考えているのか。

また、先ほどの、サンプリングについては、その調査の根拠となる基準について、何を根拠としているのかを伺いたい。

回 答（事務局）

サンプリング手法の基準については、統計学上の一般的な手法を用いております。乗降客数については、先ほど報告がありましたが、昨年度の700人より増えており、その要因としては、交通のアクセス性が良くなったことにあると考えております。地区内の人口についても下げ止まりの傾向にあり、今後増えていくものと考えております。

質 問（委員）

評価については、良いものと考えているが、今後のまちづくりについて、北千葉道路と湯川との連絡について、具体的な内容について伺いたい。

回 答（事務局）

北千葉道路と湯川との連絡については、ニュータウン中央線を延長することで、接続する計画です。平成24年度までに安食バイパス側の半分までを整備し、全体としては、成田北高校脇のT字路から、安食バイパスまでを完成させる計画です。

平成25年度から平成28年度までに整備を行い、北千葉道路が開通するまでには、ニュータウン地区から接続できるように進める予定です。

また、形状としては、立体交差によるもので、北千葉道路は高速道路ではありませんが、ランプ形式で接続する計画です。

質 問（委員）

当初計画の策定の段階では、住民参加型ではなかったと思われるが、今後のまちづくりにおいては、モニタリングや住民参加を進めるような計画となっている。

これまで市民参加のまちづくりとして、住民と協働で進めてきたものはあるのか。

回 答（事務局）

今回の事業は、市民との協働で進めるまちづくりとして、市民が住みやすい、安心して住むことが出来るまちづくりを第一に目標とした事業であり、今回の結果をもとにして、あらためて市民との協働したまちづくりを深めていく、その第一歩となる事業と考えております。

質 問（委員）

実施過程の評価において、モニタリングの実施をしていませんが、その理由を教えてください。

回 答（事務局）

今回事後評価を行っている事業については、モニタリング等は実施しておりませんが、次の第二期計画においては、アンケート調査を実施し、計画段階での住民の意識調査をおこなっております。

意 見（委員）

待機児童については、緊急の課題として解決していただきたい。

また、駅周辺の駐車場については、ニュータウン地区内で月極や時間貸の駐車場が必要と考えておりますので、検討していただきたいと思います。

質問になりますが、ニュータウン地区の防犯カメラの設置状況や、今後の設置の計画について、教えていただきたい。

会長意見

只今の委員のご意見につきましては、前半部分のご意見、後半部分のご質問として、事務局より回答願います。

回 答（事務局）

防犯カメラの設置について、担当課は交通防犯課ですが、現在検討を進めている第二期計画のなかで、設置を見込んでおります。

意 見（委員）

バリアフリー化については、相当なレベルでしっかりとしたものが出来ていると感じております。これは質問になるかとは思いますが、成田湯川駅は、当初と変わらず駅前らしさが感じられない状態が続いており、市として、駅前の利用に繋がるような誘導等がおこなわれているのか、教えていただきたい。

回 答（事務局）

駅前の賑やかさとしては未だ十分ではありませんが、ロータリー部分について、商業系の施設等が建っておりませんので、今後、民間事業社が進出することが見込まれるようであれば、市として手続きの支援等を行っていきたいと思います。

また、駅の北側についても、北千葉道路が整備されていきますので、南側と北側をあわせて整備し、賑わいの創出につなげる支援をしていきたいと思います。

意 見（委員）

今後あらたな道路が整備される場合、住宅地が抜け道として利用されるなど、交通問題の発生が考えられるため、市民アンケートを行い、住民の安全性が保たれているのかを確認するようお願いしたい。

回 答（事務局）

次期計画の事後評価のなかで検討させていただきたいと思います。

質 問（委員）

湯川駅の北側の開発について、市としてどのような計画をもっているのか。

回 答（事務局）

駅の北側については、市街化調整区域となっており、原則として開発が出来ない区域となっておりますが、現在市では、市街化調整区域における土地利用方針を策定しており、駅周辺の活性化に寄与する土地利用を検討しております。

6 傍聴

傍聴者 2名

7 次回開催日時(予定)

平成25年1月予定